

ICTで 授業 をDX!

学年 小学校5年 教科 国語 など

学びが深まる! ゴールにつながる! デジタルリーフレット

使用するアプリケーション等
・スクールタクト
・Google Jamboard

単元・題材 やなせたかしーアンパンマンの勇気

本時の目標 人物像を具体的に想像したりすることができる。

ICTを活用することで できること

- ・毎時間の終わりに、学習成果をデジタル化したリーフレットに貼り付けていくことで、学んだことがゴールへとつながっていく様子を実感することができ、児童の学習意欲を高めることができる。
- ・書いたり、消したり、並び変えたりというような処理が、アナログに比べて簡単にできる。そのため、自分の考えを修正したり、追記したりすることに対するハードルが下がり、結果として話し合いの質が高まる。
- ・思考ツールを活用した授業と相性が良い。思い付く限り考えを出し合い、整理することが容易となるため、効果的に児童の思考を深めることができる。

DX前 (ICTを使っていなかった頃は・・・)

1 導入

- ① 掲示された単元計画表を見て、学習のゴールと、本時の位置付けについて確認する。
ノートを見て、前時までの学習を振り返る。

2 展開

単元のめあて リーフレットを作って、家の人にやなせたかしを紹介しよう。

課題 やなせたかしは、どんな人といえるだろうか。

- ① 言動からうかがえる、「たかし」の人物像について考える。
 - 教科書を読み、やなせたかしの人物像がわかる箇所に線を引く。
 - どのような人物像かについて考えをまとめ、ノートに記述する。
- ② なぜ「たかし」がそのような人物になったかを考える。
 - 「たかし」の人格や考えが形成された理由やきっかけを本文から探し、ノートに記述する。
- ③ グループで交流する。
 - ノートに書いた内容を共有し、多様な考えに触れる。
 - 自分の考えの共通点や相違点を見付け、ノートに記述する。
- ④ 考えた内容をリーフレットにまとめる。
 - 交流によって深まった、「たかし」の人物像についてまとめ、リーフレットに清書する。

3 まとめ

- ・やなせたかしは、売れなくても漫画を描き続けた我慢強い人。
- ・やなせたかしは、弟の死をきっかけに、命の大切さについて考え続けた人。

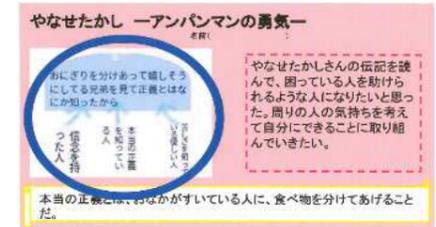
- ① 本時のまとめをする。
 - 自分の言葉でノートにまとめる。
- ② 振り返りを行う。
 - ノートに書く。

DX!

DX後 (赤字はICT活用場面)

1 導入

- ① Jamboardで作成したリーフレットを表示し、本時の活動の位置付けについて確認する。
- ② 本時の学習後、完成させるリーフレットの部分を示し、学習のゴールへ向けて意欲を持たせる。



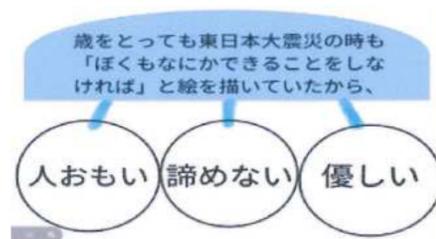
「今日はいよいよ、クラゲチャートを作るよ。」活動後、ゴールに近づくことを実感できることで、児童の学習意欲が高まる。

2 展開

単元のめあて リーフレットを作って、家の人にやなせたかしを紹介しよう。

課題 やなせたかしは、どんな人といえるだろうか。

- ① 言動からうかがえる、「たかし」の人物像について考える。
 - 教科書を読み、やなせたかしの人物像がわかる箇所に線を引く。
 - どのような人物像かについて考えをまとめ、**スクールタクトで配布したクラゲチャートに記入する。**
- ② なぜ「たかし」がそのような人物になったかを考える。
 - 「たかし」の人格や考えが形成された理由やきっかけを本文から探し、**クラゲチャートに記入する。**
- ③ グループで交流する。
 - クラゲチャートに書いた内容を児童間で共有する。**
 - 言語活動の中で、**それぞれのクラゲチャートを精査し、友だちの意見を付け加えたり、整合性のない記述を修正したりする。**
- ④ 考えた内容をリーフレットにまとめる。
 - 交流によって深まった、「たかし」の人物像についてまとめ、**リーフレットに貼り付ける。**



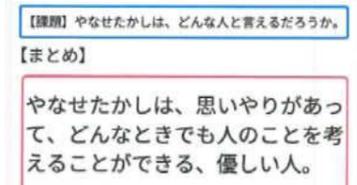
クラゲチャートには、自分が思う人物と、なぜそう思うかという理由を記入する。互いのチャートを見せ合い精査することで、より明確に、人物像に迫ることができる。

3 まとめ

- ・やなせたかしは、売れなくても漫画を描き続けた我慢強い人。
- ・やなせたかしは、弟の死をきっかけに、命の大切さについて考え続けた人。

- ① 本時のまとめをする。
 - 自分の言葉で**スクールタクトにまとめる。**
- ② 振り返りを行う。
 - スクールタクトに書く。**

ICTを活用しているので、修正や追記も容易です。リーフレットにするときは、作成した画像を切り取り、貼り付けるだけで完了する。



まとめや振り返りは、スクールタクト上で行う。児童との共有が容易になるだけでなく、授業ごとの変化が見取りやすくなる。

授業者から (成果・課題・留意点)

- ・学習後、リーフレットが徐々に埋まっていくので、「早く次の学習をして、完成させたい。」という意欲をもつ児童が増えた。
- ・ICTを活用したことで、書く作業が苦手な児童も、意欲的に学習に取り組むことができた。
- ・リーフレットをデジタル化したことで、学習後、新たに清書する時間がなくなり、効率的に学習を進めることができた。
- ・文字入力が苦手な児童には、必要に応じて従来どおりノートを活用させるなど、柔軟に取り組むことが望ましい。ノートであっても写真を撮ることでデジタル化して、ポートフォリオとして活用することができる。